

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Autumn 2019

Vol.27

特大号



特集① 海外の人形劇レポート
ヨーロッパ・アジア
特集② 台湾 雲林国際人形劇フェスティバルへ
飯田女子高等学校人形劇クラブ

Chiyoko

Dogushi Vol.27 2019年11月発行 発行：「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-03-5994 FAX:050-03-5994 E-mail: itda-puppet@misjans.or.jp

掲示板 いいた人形劇センターからのお知らせ

市民がつくる“飯田発”の人形劇
『人魚姫』下條公演決定!
「チケット絶賛販売中」



今夏、新たなキャストで4年ぶりの再演となった人形劇『人魚姫』。いいた人形劇フェスタ2019では2公演とも完売となった話題作の下條公演が決定しました。

飯田下伊那の市民が、プロの演出家・美術家とともにつくりあげた本格的な舞台作品をみんなで観よう!

- 日時/12月8日(日) 14:00開演
- 会場/下條村コスモホール
- 料金/大人800円、子ども(3歳~高校生)400円、親子(大人1+子ども1)1,000円 ※3歳未満無料、全席自由
- 問合せ/ ☎050-3583-3594 いいた人形劇センター

Dogushi

並木 さんぽ

いいた人形劇センター初のプロデュース作品『人魚姫』。この夏4年ぶりに新たなキャストで再演となりました。今回もキャスト・スタッフひとり一人の情熱や作品に込めた思いが、会場いっぱいのお客さんに伝わったと感じています。そして、地元の皆さまのご協力により、12月に下條村での公演が決定しました。ぜひ多くの方にご覧いただければ幸いです。

次号は1月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

ジョルディ・ベルトラン・カンパニー(スペイン)「Visual Poems アルファベットの人形たち」公演が、飯田人形劇場で行われました。スポンジで作られたアルファベットの人形がまるで命が吹き込まれた人間のように動く様子に、観客は魅了されました。

AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

モントリオール市 ウートルモン区(カナダ)

人口170万、カナダで2番目の大都市モントリオール。この都市はさらに複数の区に分かれており、その1つがウートルモン区です。2km四方ほどの小さなまちですが、モントリオールで毎年行われるキャステリエル・フェスティバルの事務局でもある「国際人形劇館(MIAM)」を擁するウートルモンは、大都市モントリオールにおける人形劇文化の発信基地のような存在。MIAMの頭のMは「家」を意味するフランス語の単語Maison。本当に家にいるようなくつろいだ雰囲気の施設にはアトリエ、スタジオ、交流スペースがあります。フランス文化の影響の強いこの地域ならではの意匠を凝らした表現方法が、日々ここで生み出されています。



いいた人形劇フェスタ2018では日本語での上演に挑戦した「ブチ・アーム」。モントリオールに拠点を置く、キャステリエル・フェスティバルの常連です



人形劇博物館「TOPIC」

海外の人形劇レポート ヨーロッパ・アジア

今秋、飯田の人形劇関係者が世界各国で開催される人形劇フェスティバル等へ出掛けました。上演、観劇、交流と目的はさまざま。訪問先のスペイン・トロローサ市、フランス・シャルルヴィル・メジエール市、韓国・春川市、中国・北京市を訪ねたレポートが届きました。

スペイン・トロローサ市



建物に入ると巨大人形が迎えてくれます

古くからの街並みが残る人形劇のまちトロローサ

飯田文化会館 人形劇のまちづくり係 宮澤 圭



「TOPIC」の展示室。世界中の人形を見ることが出来ます

9月27日・28日に開かれたA V I A M A総会に先立って、22日から25日にかけて飯田市長がチゴのピルゼン市とスペインのトロローサ市を表敬訪問しました。2つの都市はA V I A M Aでそれぞれ会計と書記を担当しています。今回は9月23日に訪問したトロローサ市について紹介します。トロローサ市はスペイン北部のバスクと呼ばれる地域にある人口1万8千人ほどの都市です。スペイン北部からフランス南部にまたがるバスク地方ではバスク語という固有の言語が話され、独特な文化を持ち、最近では日本でもその食文化が注目されています。

市庁舎訪問のあと、トロローサ市職員の案内で庁舎周辺を見学しました。中世時代、城壁に囲まれていた市の中心地は、今なお当時の雰囲気を残していますが、川で隔たれた中心地から出ると現代的な建物が並び、対照的な街並みを見ることが出来ます。

また、TOPICと人形劇の博物館も見学しました。昨年、いいた人形劇フェスタでも上演された「トロローサの巨人」で使われる巨大人形や文楽の人形、影絵など世界中の人形が展示されており、ほかにも専用の劇場や宿泊設備、ワークショップのための部屋など充実した展示や施設を見ることができました。収蔵庫は壁が一部透明で、しまつてある人形を見ることができたり、展示棚の床と天井が鏡になっていて人形が無限に飾つてあるように見えたりと、人形を見せるための工夫も感じました。今後も様々な方たちで、飯田と同じく人形劇のまちであるトロローサとの文化交流がなされることに期待しています。



石造りの門から見る街並み。狭い路地に古い建物が並びます

チケットがネット予約となり、予約番号と名前を言うだけですぐに渡してくれました。これは大きな進歩。素晴らしい！



本部を出たところで小さなオーケストラが演奏中。覗き込んで鑑賞

フランス・シャルルヴィル・メジエール市

世界中から集まる多彩な表現の場

いいた人形劇フェスタ実行委員長 原田 雅弘



小学校訪問。「この街が生んだランポーの詩を朗読します」そのあと、みんなで歌を歌ってくれました



飯田通りに面した中学校の演劇部の子どもたちが、パフォーマンスを見せてくれました。このあと、彼らが一番好きだという稽古に参加させてもらいました

9月24日から27日まで、シャルルヴィル・メジエールで開催された世界人形劇フェスティバルに行ってきました。今回は、昨年、飯田市龍江を訪れてくださった市長さんたちへの返礼として、同市を訪問する龍江地区の皆さんと合流して表敬訪問に同行することが主な目的でした。26日には、龍江の皆さん、A V I A M A総会に出席する市長・教育長たちと合流して、小学校の視察、「飯田通り」での中学生たちとの交流、テュカル広場にある旧市庁舎内に開設される「日本の間」の開所式などに参加してきました。フェスタに参加するだけではない貴重な体験

をさせていただきました。今回、ぼくがいる間は毎日雨。楽しみにしていた大道でのパフォーマンスはほぼ中止。公演も実質2日しか観られず、なんとも物足りないフェスタ参加でした。そんな中でも印象的だったのは、戦争や抑圧、民族問題など社会的な問題をテーマにした芝居が多く見られたこと。しかもそのいくつかは、それらの問題を芸術表現まで昇華して、鑑賞に堪えるものとなっていたことです。しっかりと味わうことはできませんでしたが、世界中から集まる多彩な表現を感じられる学びの場として、日本の若い劇人さんたちにも多く参加してほしいという想いを抱きながらフェスティバルを後にしました。



はじめて訪れました。「飯田通り」



メイン会場「太湖文化芸術公園」の入口

中国 北京市



春川人形劇場。今年、壁面に絵が描かれにぎやかな外観に

劇場に隣接する人形劇ミュージアム。前面にあるのは前夜祭に登場するはずだった巨大人形



韓国 春川市

北京フェス関係者が、今夏のいまだ人形劇フェスタでましゅ&Keiの上演を観劇して参加が実現

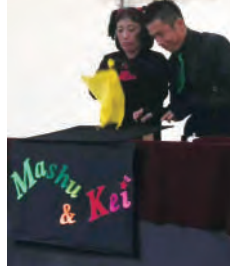
「北京(太湖)芸術影絵人形劇芸術週間」へ

音楽的道化師 ましゅ&Kei

北京の中心街からは東南に約35km、太湖文化芸術公園がこのフェスティバルのメイン会場だ。広い園内には気持ちのよい自然とたくさんさんのオプジー。3棟の大きな劇場テントと屋外公演用の小さなテントが4棟設置され、10月2日開幕した。

中国という国柄なのか、国慶節70周年という国家的行事期間だからなのか、フェスティバル会場はセキュリティが厳しい。屋外の小さなテントには7人も警備員。劇場テントでは警備員に加え金属探知機のセキュリティチェックが設置。慣れない物々しい雰囲気にも、時間になると老若男女が集まってきた。うん、国は違えど楽しむ心は同じはず、と私達は深呼吸し、公演を開始。気がつけば、あら不思議、あつという間に終演時間。そしてたくさんの方が笑顔で握手

毎日複数回の上演というハードスケジュールだったが、何回も観に来てくれるリピーターがいてくれたことに感謝



公演を観て「楽しかった」と話して来られる子どもたちのかわいさ

や写真を撮るため、なんとあの警備員達も笑顔で拍手をしてくれている。ぬふふ、思わずこちらも笑顔満載。

今回嬉しかったことの1つに、何度も観に来てくれる人たちがいたということ。それも何組も。6日間で屋外12公演、劇場6公演という、なかなかハードスケジュールだったが、そんなリピーターの顔を見るたび、このフェスで毎日上演できることに感謝した。複数回の上演、歩いて廻れる距離内での上演、この2点がこの幸運な再会をつくる。海外のフェスではこんな条件の場所やスケジュールが比較的多く、とても良いな、と思う。

国も言葉も文化も違うけれど、それを一瞬で飛び越える、そう、そんな力が舞台にはあるに違いない。それを実感するからこそ、私達は、どんな大変なことがあっても、海外公演が好きなのだと思う。

そしてこれからいろいろな国のたくさんの人の笑顔と出会うために、公演を続けたくなるのだ。



北京フェス関係者と。事前打合せと現地の状況が違う“海外公演あるある”もありつつ…柔軟性と対応力が必須。各国の言葉が飛び交う現場でした。最後は笑顔で「Good Fes!」「See you!」



劇団ロギナレ「Giving Tree」。屋外公演にもちょうど良い気候



Long & Short Company「糸のショー『点』」。今年のコンテストの最優秀賞受賞作品

多彩な上演が特に印象的だった。

昨年ブルチネラの完コピを披露した若者は、今年オリジナルの韓国版ブルチネラと綿菓子パフォーマンスで観客を熱狂させた。ロギナレの若い役者2人の「Giving Tree」はなんとも感じの良い好演。フランスのクラウン学校で学んだという青年は、1本の糸をキーアイテムに、あやとりからパンジージャンプ、宇宙旅行へとつながる感動のドラマを紡ぎ出す。等々。春川人形劇祭は今が旬である。

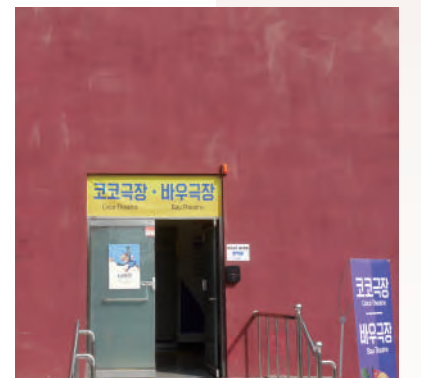
今が旬の春川人形劇祭

前 飯田文化会館 人形劇のまちづくり係係長 北林克己

ソウルから北東に80km、ダクカルピヒマックス、冬のソナタで有名な春川は、人口28万人の美しい湖畔のまち。そして、韓国最大のマイムフェスと人形劇フェスが開催される国際芸術都市。

春川人形劇祭2019は、9月28日から10月3日までの6日間、春川人形劇場を中心に開催された。国内招待9作品、海外招待8作品、コンテスト7作品のほか大道芸や自由参加の40作品による約150公演、そのほとんどの公演が劇場とその敷地内で行われるので、その気があれば毎日9本くらいは観劇できる。

今、春川人形劇祭は目覚しく進化している。数年前から、人形劇祭とは別の時期に国際人形劇セミナーを開催し、韓国の若い人形劇人たちが



ココシアターとパウシアター、2つの小劇場の入口



フェスティバルに参加する劇団の方々と食事をいただきました



どれもおいしいお料理ばかりでした

上演後は人形を近くで見ようとお客さんが多勢集まってくれました



閉会式では人生初のレッドカーペットを歩きました。とても緊張しました



閉会式のセレモニーで生演奏してくれたプロ奏者の皆さんと記念撮影



雲林県の県政府所在地の斗六市「斗六人文公園」の特設ステージで上演しました



上演前、部員全員で円陣を組んで気持ちを一つにしました

阿波の鳴門 巡礼歌の「段」を10月11日・12日の2日間上演しました。観に来てくださった現地の方々が人形に興味をもってくれたのか、上演後にステージに来てくださり、写真撮って行かれる方や、人形の目の動きを

私たち人形劇クラブは、夏休みを使って練習をしてきました。黒田人形保存会の方々に指導に来ていただき、人形の動きのメリハリをつけることや、頭の傾きに注意しながら進めてきました。三味線と義太夫（語り）は、音の調節や人形と合わせることに集中してやってきました。先生方には「人形を大きく動かして、自信をもつてやるように」と、激励の言葉をいただき送っていただきました。雲林国際人形劇フェスティバルでは、「傾城



台湾 雲林国際人形劇フェスティバルへ

飯田女子高等学校人形劇クラブ

いい大人形劇フェスタと友好提携を結ぶ台湾の「雲林国際人形劇フェスティバル」が10月10日から13日まで開催され、飯田を代表して飯田女子高等学校人形劇クラブが伝統人形芝居を上演。帰国早々、訪台の様子をレポートしてくれました。

部員の絆を深められた台湾公演

飯田女子高等学校 人形劇クラブ長 島岡里奈



10月13日に行われた閉会式のセレモニーでは、生演奏の「さくらさくら」の曲にあわせてパフォーマンスを披露しました。この様子は地元でテレビ中継されました

披露した時のリアクションはすごくよかったです。13日には閉会式があり、プロのダンサーの方々が教わったパフォーマンスを人形と共に披露しました。これから先、歩くこともないレッドカーペットも歩くことが出来ました。こんな経験はしたことがなかったので、とても貴重な経験でした。台湾に行くと、前よりも部員の絆を深められた雲林国際人形劇フェスティバルでした。

わくわく イベントスケジュール

- 森のほかほかクリスマス**
12月1日(日) 会場／かごこし子どもの森公園
料金／1,000円～(人形劇公演のみ800円)
出演／人形劇団ひばりあむ「チップとチョコ」
人形劇公演のほか、クリスマスリースやピザをつくる体験を組み合わせたスペシャル企画
- 『人魚姫』下條公演**
12月8日(日) 14:00開演
会場／下條村コスモホール
料金／大人800円、子ども400円、親子1,000円
市民がつくる「飯田発」の人形劇が4年ぶりに再演。
8月いい大人形劇フェスタに続き、下條村で上演
- 人形劇定期公演**
12月15日(日) 10:30開演
会場／飯田人形劇場 料金／200円(3歳未満無料)
出演／川路小学校 レッツ川路キッズ、ぱべっと・どらら、ふたご座

- ましゅ&Keiのクリスマス会**
12月21日(土) 会場／飯田市川本喜八郎人形美術館
ましゅ&Keiがゲストに道化師ビリーを迎えて繰り広げる一日限りの愉快なステージ
時間／昼の部15:00・夜の部19:00開演
料金／昼の部500円、夜の部2,500円
- 初春を寿ぐ竹田人形館**
1月11日(土)・12日(日) いずれも11時・14時開演
会場／竹田人形館 出演／竹田人形座 鈴木友子、竹の子会
料金／大人1,500円、子ども1,000円
オリジナル脚本による新作「血脈の印」ほかを上演
- 人形劇定期公演**
1月25日(土) 会場／飯田人形劇場
出演／飯田西中学校人形劇部The world、
人形劇すずらん、慈光幼稚園人形劇クラブきらきら座
料金／200円(3歳未満無料)

飯田のまちは、どこでも人形劇の上演会場

● 手風琴 酒井 利幸



飯田の人形劇フェスには、学生の時から参加して以来、37年間連続して参加しています。劇団の形態としては、学生人形劇サークル、社会人サークルのグループ、ひとり劇団といろいろでしたが、ずっと上演参加を続けてきました。そのエネルギーはどこから湧いてくるか？それは、私は上演することが大好きで、一人でも多くの方に見ていた

次号は「人形劇チーム青空共和国」の山崎素裕さんです

すべての道は飯田へ通ず

「わいわいパレード」にも毎年参加しています

1986年の人形劇カーニバル飯田「お別れパーティー」にて。社会人サークルの仲間と参加(写真右が筆者)



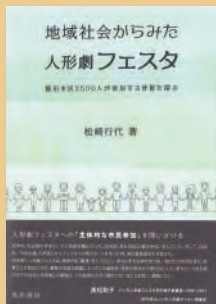
大きくことができれば、それが幸せ！(本来、私はシャイな性格なのですが、とても不思議なことです)そんな私の願望を満たしてくれる、それが飯田です。飯田での上演を思い返すと、地区の公民館 保育園、小学校の体育館はもちろんのこと、歩行者天国、人形劇人の宿泊所、町なかの農村舞台、寿司屋の一角などさまざまなおで場で上演させていただきました。それぞれの会場には、それぞれの特性、客層の違いがあり、反応もさまざま。そんな飯田のまことに、今後もずっと通い続けることでしよう！

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から②

『地域社会からみた 人形劇フェスタ』 飯田市民2500人が参加する背景を探る

いいた人形劇フェスタに長く携わってきた著者の博士論文を改定、公刊した最新刊。データを積み上げ、独自のアンケートをもとにフェスタの実像を浮き彫りにしようとしたものだ。40年を超えたフェスタのこれからを考える素材として重要な記録ともいえ、客観的な視点は全体像を見渡すに欠かせない資料となっている。市民への観劇参加と地区実行委員会への二つのアンケートはまさしくフェスタの実態を示しているように思え、この出版がフェスタのこれからにどのような方向性を見出せるのか、さらに上演側の実態も併せて考えていくことも課題となるのではないだろうか。フェスタに関わる人も組織も併せ必見の書。



松崎行代 著
見洋書房 (2019年)

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



海外レポート

マテジカフェスティバル<チェコ>

いいた人形劇センター事務局長 木田敬貴

2年ごとに開催されるマテジカフェスティバルが今年の6月18日から22日にリベレツでありました。リベレツはチェコの北部に位置し、人口は飯田と同じ10万人です。小さな子どものための作品を集めたプロ劇団による国際人形劇フェスティバルです。マスコットは子どもたちが大好きな象。フェスティバル期間中は地元の幼稚園の子どもたちが団体鑑賞したり、ファミリーで見に來たりしています。また見本市の要素もあり、海外のフェスティバルディレクターも多く参加しています。

今回は25回目を迎え、記念イベントが盛りだくさん。公演数が多いのに加え、2つの特別展がありました。ひとつはカシュパーレク展。カシュパーレクとはイギリスのパンチ、イタリアのプルチネラ、ドイツのカスベルなどと同じように、チェコで人気の手遣い人形のヒーローです。チェコは伝統的にマリオネット(糸操り人形)が多く、チェコのマリオネットはユネスコの無形文化遺産にも登録されています。もうひとつがフェスティバルを主催しているナイブ二人形劇場の作品展です。ナイブは1949年に設立。2018年2月に初来日して大阪・飯田・木更津で『空からきたひつじ』を上演しました。『アリババ』の展示は当時の音楽が流れ、舞台セットの前に40体の盗賊人形がずらり。一体ずつ目、ひげ、ターバンなどが異なり、一体感がありながらそれぞれ個性もあり、とてもユニークな人形たちでした。



カシュパーレク展。なかでも最も貴重なカシュパーレクのマリオネット



毎回象をモチーフにつくれるポスター



『アリババ』(1994年初演)

最後に公演で最も面白かったのはナイブ二人形劇場の『こいぬの大冒険(仮題)』(原題はSss: Sss: HUU: EGG)です。こいぬが電動の電車に乗って旅に出る物語は人形の動き、鳴き声、擬音と音楽だけで展開します。ロック音楽に合わせて男4人が革ジャンを着て人形を操ります。小さな空間のなかで大きな想像の世界が広がっていききました。また日本に呼べるといいなあと思っています。



ナイブ二人形劇場の最新作『こいぬの大冒険(仮題)』。終演後に間近に舞台を見ることが出来る



糸操り人形だからこそできる演出の1シーン。どのような場面になるかは本番に期待



各パーツをつくり、糸を通して組み立てる前の状態をデザイン画にあわせてみる

初春を寿ぐ竹田人形館

出演／竹田人形座 鈴木友子、竹の子会
演目／三番叟、こどもの夢、血脈の印 ほか
日程／2020年1月11日(土)・12日(日)
いずれも11:00・14:00開演 計4公演
会場／竹田扇之助記念国際糸操り人形館
料金／大人1,500円・子ども1,000円
問合せ／☎0265-23-4222竹田人形館



竹田人形座の鈴木友子さん(写真右)から稽古をつけてもらうメンバー。「見えを切る動きがなかなかしっくりこなくて。繰り返し演るしかないです」と、鈴木友子さんの操演に見入る石川五右衛門役の上沼由真さん(写真中央)



中学生のメンバーも人形づくりに参加。糸鋸、彫刻刀を使い手足の木彫りに挑戦



人形の頭をつくるため油粘土でモデリング。この後は石膏で型を取り、和紙を張り重ねて張子の頭をつくる

突撃!!

人形劇の ゲンバ Part 23 スペシャル

竹田人形座竹の子会が、新作の制作に取り掛かること一年。人形や小道具などが出来上がり、新春の公演に向けて稽古が始まったとの情報をキャッチ。制作過程の様子、新作に込める思いなどをインタビューするべく「ゲンバ」へ直行しました!

大勢のメンバーが参加して上演。新作『血脈の印』

主な登場人物は「閻魔大王」と「石川五右衛門」。落語「お血脈」をアレンジした『血脈の印』は、善光寺にある“印”をもらうと誰でも極楽浄土へ行けることから地獄が流行らなくなり、その“印”を誰かに盗まれば…というストーリー。

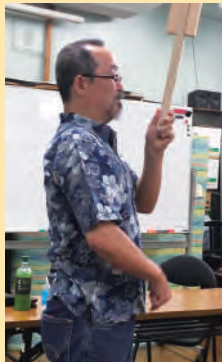
「極楽浄土、商売繁盛のお話なので初春にぴったり」と話すのは、台本を担当した竹の子会の水上隆さん。「曲に合わせて操演する演目が多いので、新作はストーリーものをつくりたいと考えていました」とも。

人形制作はモデリング、石膏型取り、張子、手足の彫刻、衣装縫製などメンバーが手分けをして行いました。「バランスよく人形が立つ」「頭が左右に動く」「肩や腕、胴などに糸が触れない」など、糸操り人形ならではの注意点が多く、人形制作に初めて挑戦するメンバーは特に試行錯誤しながらだったよう。

「竹の子会の代表作にしたい。まずは新年に披露できるよう稽古を頑張ります」と水上さんは腕をまくりました。



デザイン画を描き、これをもとに人形をつくる



わかりやすい表現の為の人形の使い方を求めて。「人形劇研究会」2019年6月・9月、ブーク人形劇場5Fにて。左写真が筆者



行われる。生命過程は、ごく低いかたちでも高度なかたちでも結局は必ず動きに表れる。と、書いてあるが、では、どうすればその奇跡を起こせるのかは、ただ「よく自然を観察しなさい」とだけ書いてある。ほかには、宇野小四郎氏が、人形の動きは歩くことに集約される、と記しているのみである。

私たちは、このように今まで語られてこなかった蘇生の奇跡を、テレビの現場で見ることの出来た者として、なんとか言語化し、システムとして習得できるようにして行きたいと考え「人形劇研究会」というものを始めることにしました。

「人形劇研究会、始めました」
テレビ人形劇の技術の伝承において、かつては、先輩の芝居を観て遣いを覚えていくことが出来たのですが、近頃は、時間をかけずに早く仕上げることが望まれ、新しい人を育てることが難しくなっています。このままでは、先人達が作り上げてきた技術の伝承が、途切れてしまいかもしれません。

「動きは見て覚える」というような、徒弟制度に近い教え方では、なかなか難しいことです。今までに書かれた人形劇の本を見て、脚本や、舞台、人形の美術に触れたことはあっても、人形の操作、動きについて書かれた部分は、殆んどありません。

「コロリョーフ著、人形劇芸術」のなかで、俳優が人形を動かし始め、そこで人形劇芸術の奇跡のひとつ、蘇生の奇跡が

劇人協会通信

映像と人形・ 人形劇 その9

日本人形劇人協会理事長
安藤 ばく

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。